令和８年漁期の
秋田県ハタハタ資源状況について

令和８年１１月２日

秋田県水産振興センター

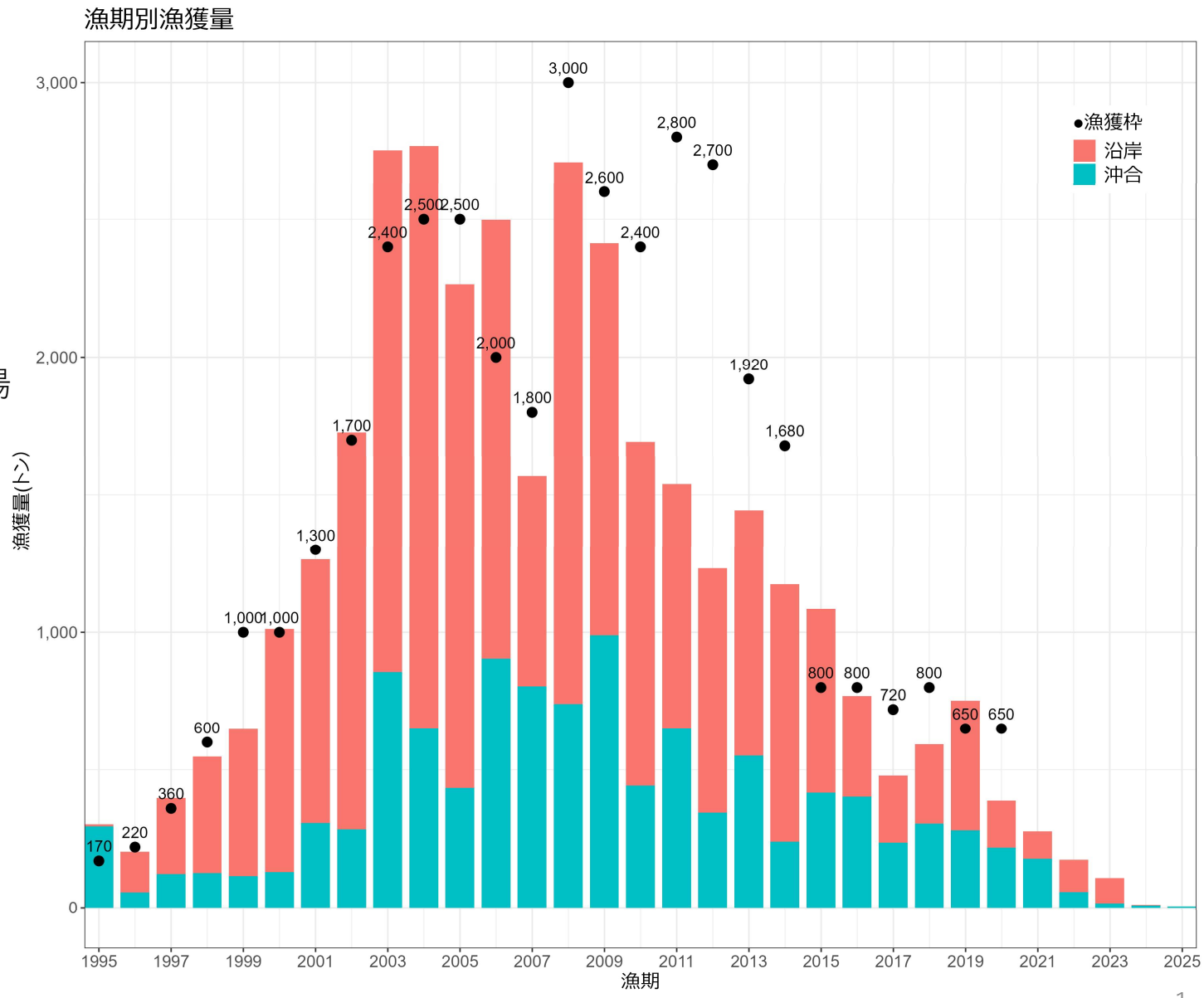
１．漁獲状況
（１）漁獲量①

○令和７年漁期の漁獲量（R7.9～R8.6）
　沿岸漁獲量：　118.2kg
　沖合漁獲量：6,212.1kg

○沿岸全地区と沖合で、まとまった水揚げがない状況

沿岸：前年比 4.9%（前年2,389.7kg）
沖合：前年比41.6%（前年14.9トン）

※漁期は9月1日から翌年6月30日



1．漁獲状況
（1）漁獲量②

○令和7年漁期は、禁漁明けで最も少ない漁獲量

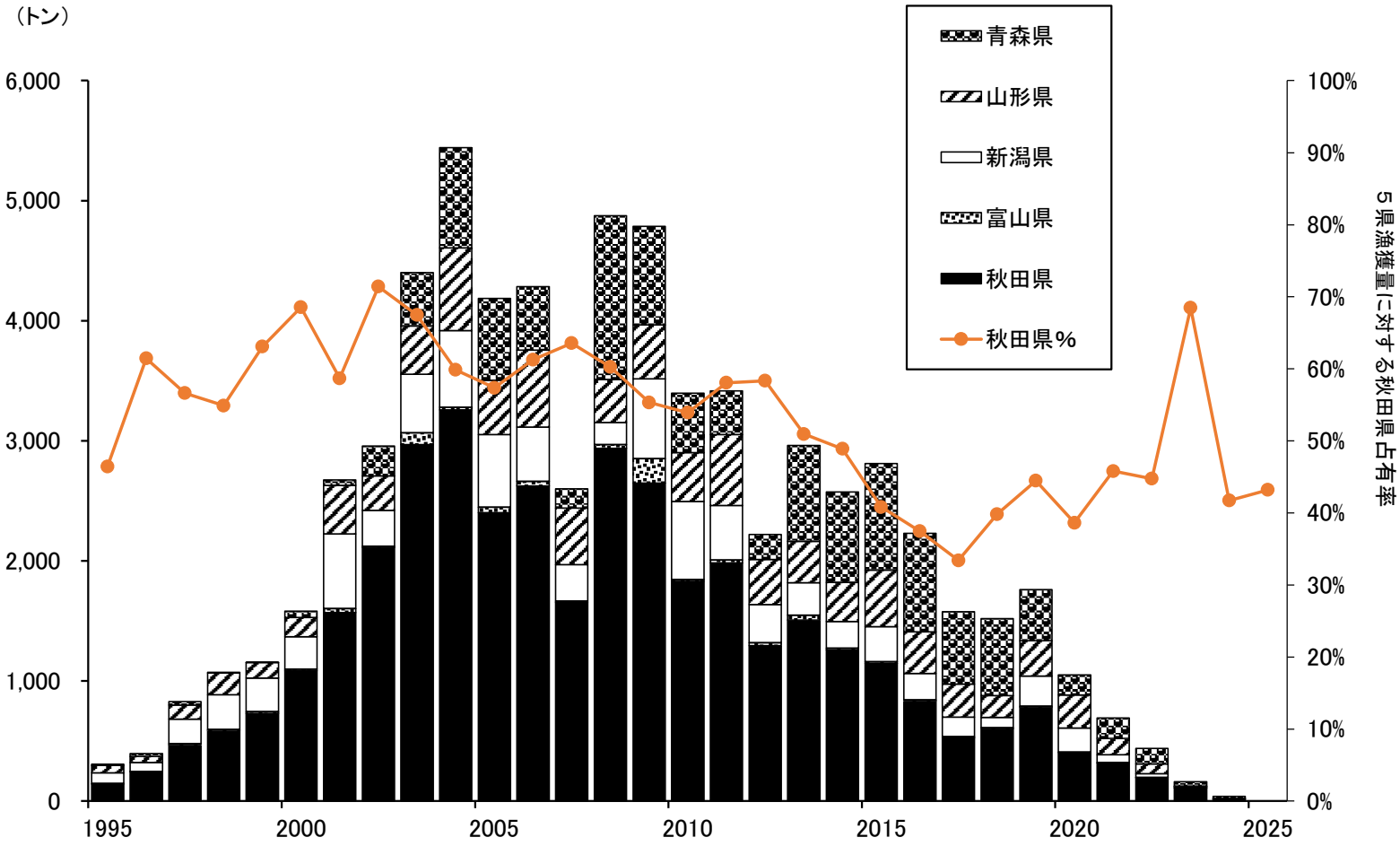
○記録の残る範囲で、暦年ベースでも令和7年は最低の漁獲量

○沖合の令和8年1～6月の漁獲量は638.1kgで、昨年3,086.6kgから減少（前年比20.6％）

漁期		管理期間	沖合（トン）			沿岸（トン）			計（トン）		
			漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)	漁獲枠	漁獲量	実績(%)
平成	7年		85	53	62	85	90	106	170	143	84
	8年	第1期	110	86	78	110	158	144	220	244	111
	9年		180	148	82	180	280	155	360	428	119
	10年		300	162	54	300	438	146	600	599	100
	11年		400	142	36	600	580	97	1,000	722	72
	12年	第2期	400	265	66	600	902	150	1,000	1,166	117
	13年		520	506	97	780	986	126	1,300	1,493	115
	14年		680	384	56	1,020	1,570	154	1,700	1,954	115
	15年		960	906	94	1,440	2,051	142	2,400	2,957	123
	16年	第3期	1,000	707	71	1,500	2,349	157	2,500	3,055	122
	17年		1,000	489	49	1,500	1,867	124	2,500	2,356	94
	18年		800	943	118	1,200	1,640	137	2,000	2,584	129
	19年	第4期	720	845	117	1,080	765	71	1,800	1,610	89
	20年		1,200	866	72	1,800	2,035	113	3,000	2,901	97
	21年		1,040	1,054	101	1,560	1,475	95	2,600	2,530	97
	22年	第5期	960	457	48	1,440	1,277	89	2,400	1,734	72
	23年		1,120	677	60	1,680	1,287	77	2,800	1,964	70
	24年		1,080	376	35	1,620	931	57	2,700	1,307	48
	25年	第6期	768	624	81	1,152	898	78	1,920	1,522	79
	26年		672	285	42	1,008	940	93	1,680	1,225	73
	27年		320	438	137	480	686	143	800	1,124	141
	28年	第7期	320	450	141	480	395	82	800	845	106
	29年		290	241	83	430	240	56	720	481	67
	30年		320	325	102	480	287	60	800	612	77
令和	元年	第8期	325	296	91	325	479	147	650	775	119
	2年		325	252	78	325	191	59	650	443	68
	3年		－	199	－	－	105	－	－	304	－
	4年	第9期	－	59	－	－	117	－	－	176	－
	5年		－	18	－	－	93	－	－	111	－
	6年	第10期	－	15	－	－	2	－	－	17	－
	7年		－	6.2	－	－	0.1	－	－	6.3	－

1．漁獲状況
（2）日本海北部5県における漁獲量

○令和７年（2025）1～12月の合計漁獲量＜速報値＞は16.2トンで、前年の40トンから24トン減少
○秋田県だけが獲れていないわけではなく、全体で減少



県別年間漁獲量
青森県　1トン（16トン）
秋田県 8.7トン（17トン）
山形県 5.3トン（ 4トン）
新潟県 1.2トン（ 3トン）
富山県　0トン（0.3トン）
（ ）内は前年漁獲量
※暦年の漁獲量

令和６年までは農林水産統計の値
令和７年は各県速報値

1．漁獲状況
（3）操業日数

〇令和７年漁期の沿岸漁の操業で水揚げ実績があったのは、岩館、八森、北浦、船川、平沢、象潟の6地区

〇沿岸の漁獲量118.2kg

〇もっとも漁獲量があった北浦で53.0kg

〇平沢、象潟については、水揚げはあっても約３kg程度

〇沖合の漁獲量は約6.1トン（令和7年漁期）

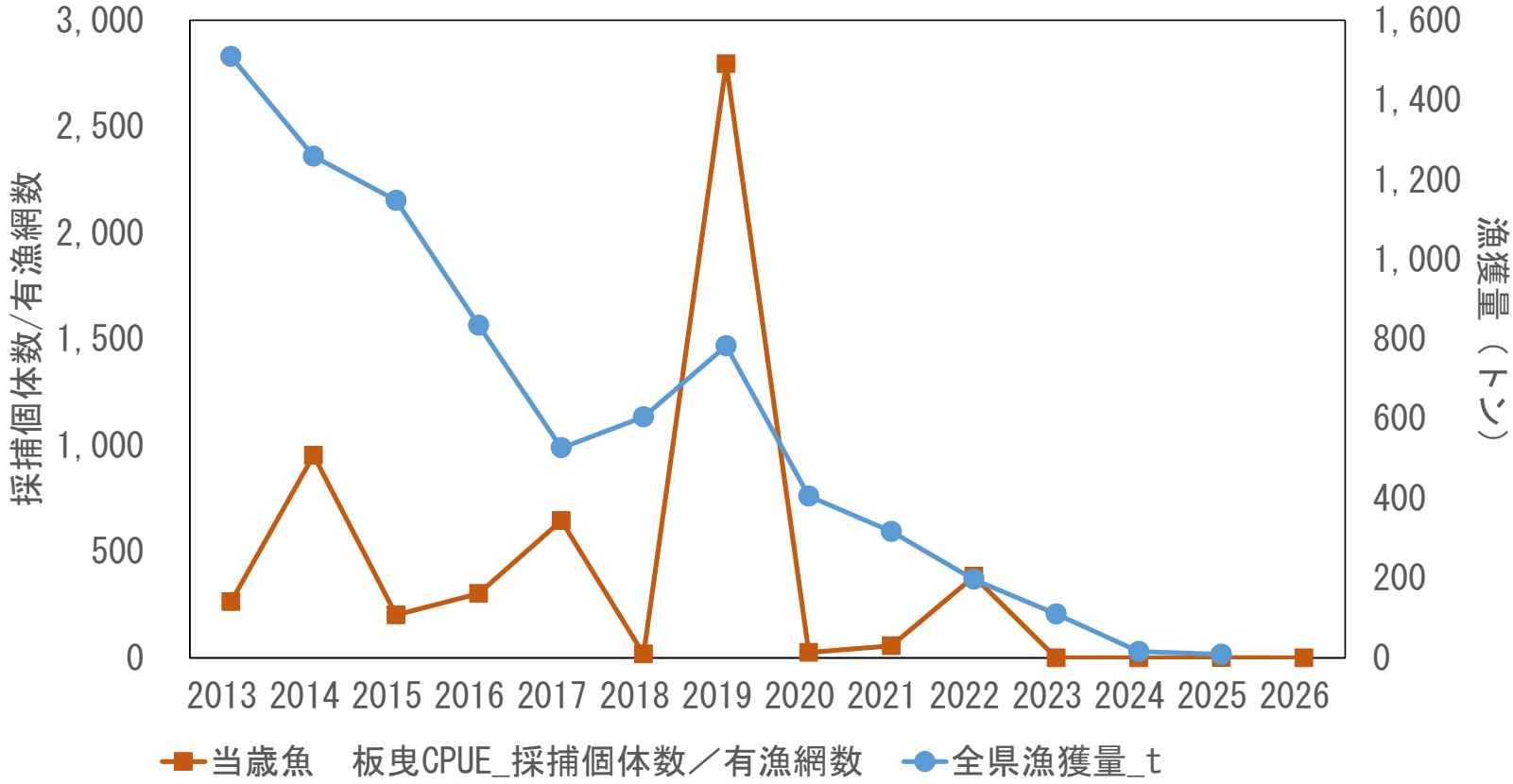
〇沿岸全地区と沖合で、水揚げ実績のカウントがされる経営体も日数もほとんどない状況

漁法	地区	経営体数							経営体ごとの水揚日数						
		上限	実績 R5	実績 R6	実績 R7	実績/上限 R5	実績/上限 R6	実績/上限 R7	上限	実績 R5	実績 R6	実績 R7	実績/上限 R5	実績/上限 R6	実績/上限 R7
刺し網	岩館	8	8	6	3	100%	75%	38%	12	5	4	3	42%	33%	25%
	八森	14	13	10	6	93%	71%	43%	12	8	4	2	67%	33%	17%
	道川	12	1	0	0	8%	0%	0%	15	1	0	0	7%	0%	0%
	西目	10	3	0	0	30%	0%	0%	15	3	0	0	20%	0%	0%
定置網	岩館	4	3	1	0	75%	25%	0%	12	7	3	0	58%	25%	0%
	八森	5	3	0	0	60%	0%	0%	12	3	0	0	25%	0%	0%
	能代	1	1	0	0	100%	0%	0%	12	4	0	0	33%	0%	0%
	若美	2	1	0	0	50%	0%	0%	12	2	0	0	17%	0%	0%
	五里合	6	1	0	0	17%	0%	0%	12	4	0	0	33%	0%	0%
	北浦	8	6	7	1	75%	88%	13%	15	9	2	5	60%	13%	33%
	船川	30	5	1	0	17%	3%	0%	15	2	1	0	13%	7%	0%
	脇本	6	0	0	0	0%	0%	0%	12	0	0	0	0%	0%	0%
	天王	5	0	0	0	0%	0%	0%	12	0	0	0	0%	0%	0%
	道川	1	0	0	0	0%	0%	0%	17	0	0	0	0%	0%	0%
	平沢	1	0	1	1	0%	100%	100%	15	0	1	2	0%	7%	13%
	金浦	1	0	0	0	0%	0%	0%	17	0	0	0	0%	0%	0%
	象潟	2	0	1	1	0%	50%	50%	15	0	1	1	0%	7%	7%
底びき網	全県	17	17	17	17	100%	100%	100%	22	3	3	1	14%	14%	5%

・底びき網の経営体ごとの水揚日数は、90kg以上を1日とカウント。
・底びき網の経営体数上限は2024年漁期から17とした。以前は18のため2022年は100%を超えている。

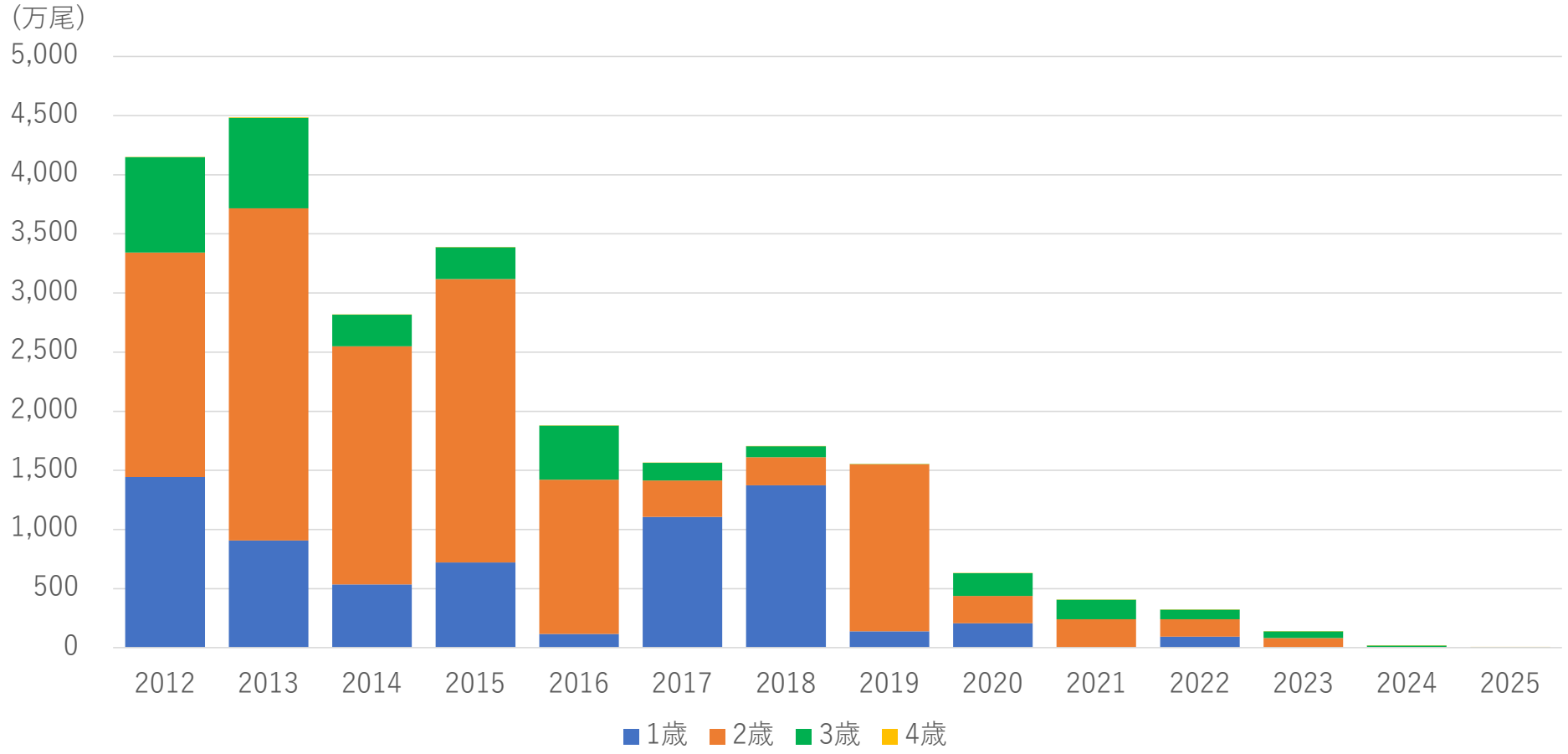
２．調査結果
（１）仔稚魚（０歳）の出現状況

サンプル採取
千秋丸板びき網
当歳魚（0歳魚）の漁獲調査



〇2023年と2024年の調査では、仔稚魚（0歳魚）の採捕はなし。
〇2025年の調査では、5月13日に船川沖で1尾のみ仔稚魚（0歳魚）を採捕した。
〇2026年の調査では、仔稚魚（0歳魚）の採捕なし。

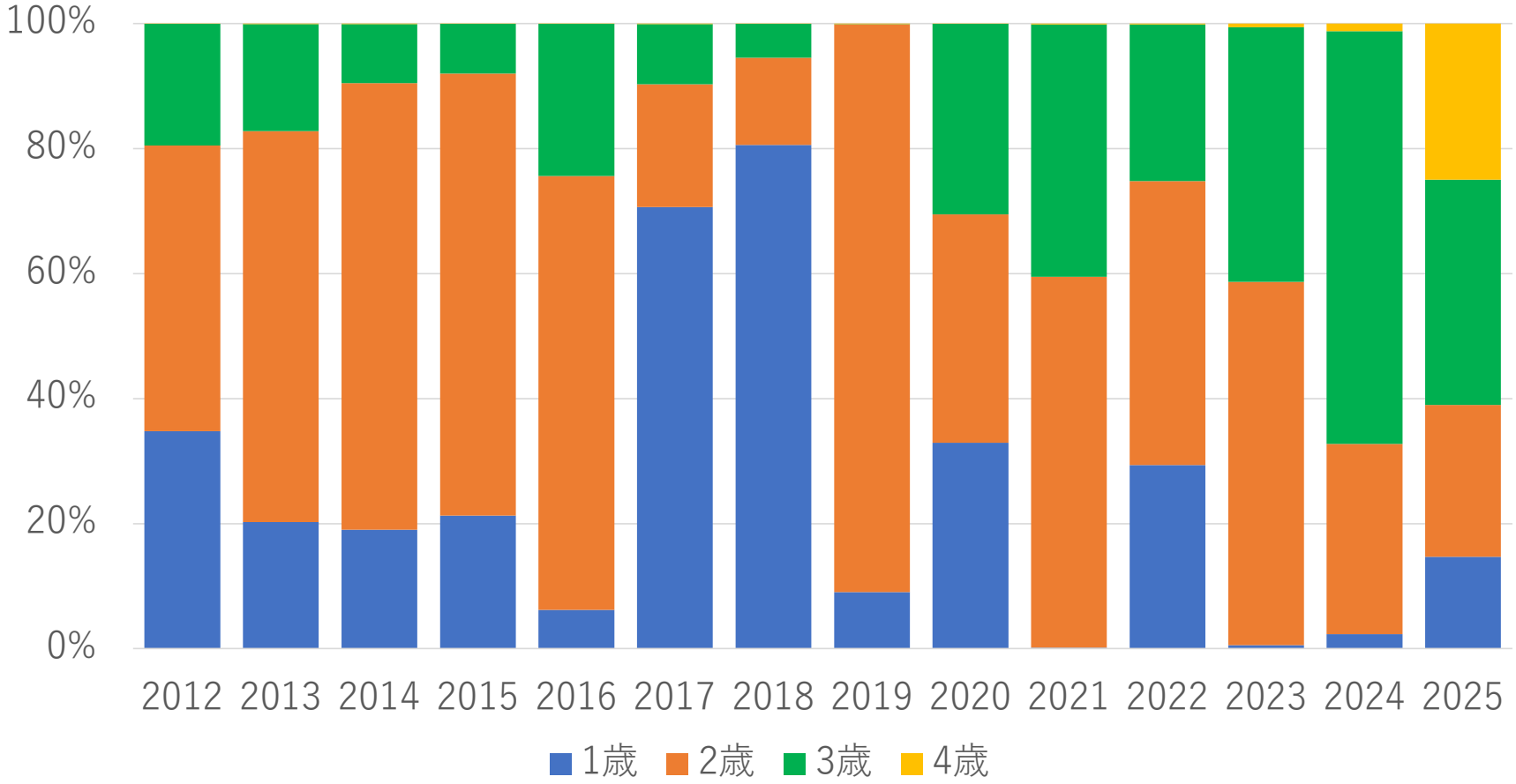
２．調査結果
（２）年齢別推定漁獲尾数



〇調査で得たサンプルの年齢構成から各年齢の尾数を推定
〇若齢魚の方が多くなるので１、２歳魚が漁獲の中心となる。

２．調査結果

（３）推定漁獲尾数の年齢構成



〇2024年、2025年の推定漁獲尾数では、3歳以上の魚の割合が半分以上を占める
〇近年は、1歳魚の加入が少なく、漁獲の中心が3歳以上がメインとなっている。

2．調査結果
（4）漁獲物の体長組成

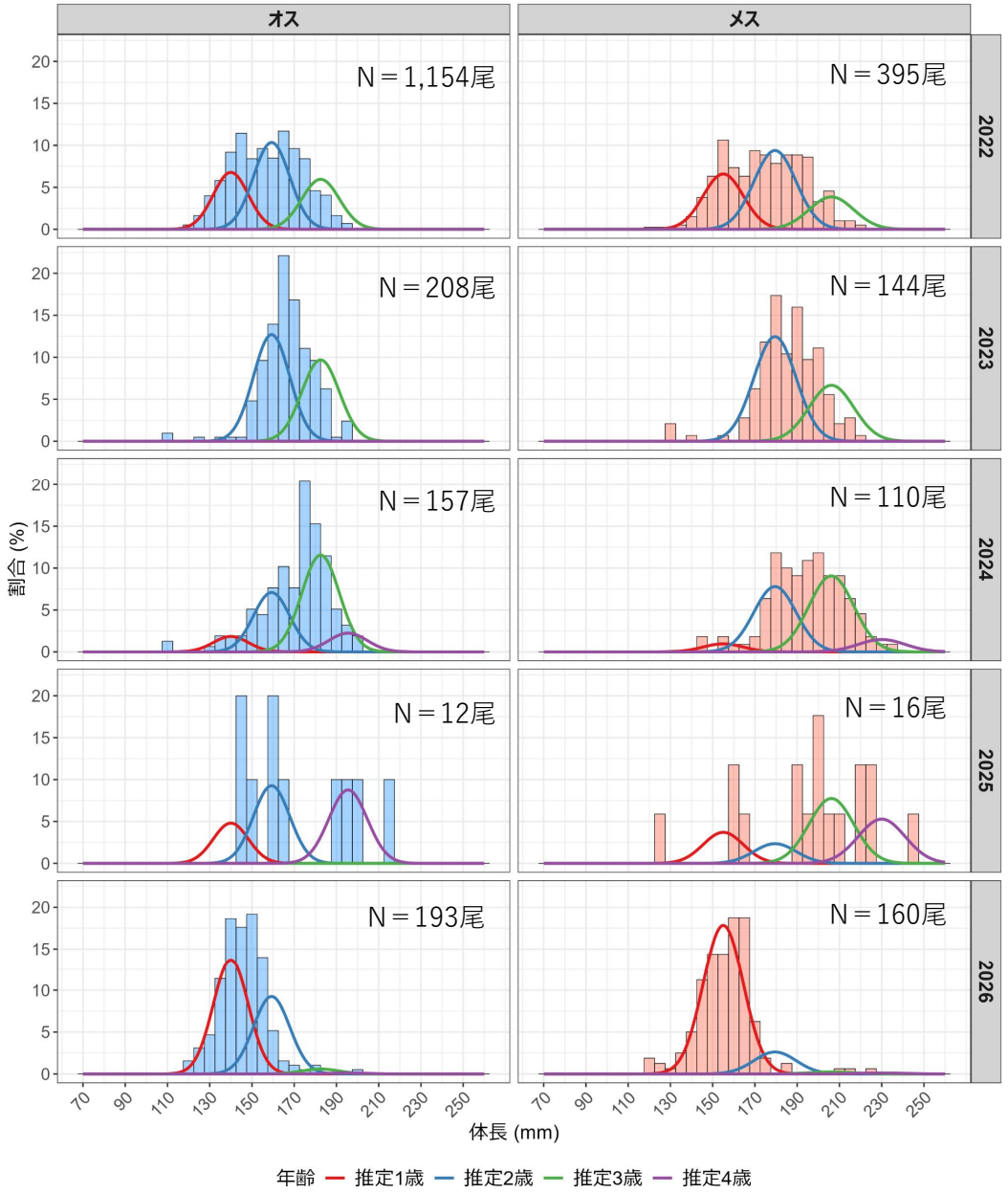
○サンプル採取方法
9～12月（2026年は9月まで）
千秋丸（男鹿ー由利本荘市沖）
かけ廻し

○今期は昨年度と異なり、9月の千秋丸の調査で10kg以上の漁獲が2日ある

○今期のこれまでの調査では、小型の個体が多く、1歳から2歳がほとんどを占め、メスは１歳が主体

【参考】9～12月頃の年齢ごとの体長の目安（cm）

	1歳	2歳	3歳	4歳
オス	14.0	16.0	18.0	20.0
メス	15.5	18.0	20.5	23.0



3．各地区の方針

漁業種類	地区	上限	実施の可否	内容
刺し網	岩館	8	○	刺し網の操業はやるが、産卵用の基質を設置して産卵した卵のふ化放流を実施する。
	八森	14	○	刺し網の操業を認めて欲しい。代わりに深場での産卵調査等に協力。
	道川	12	△	他地区の漁獲状況により判断
	西目	10	△	基本的には操業しない。他で獲れた場合は操業する。
定置網	岩館	4	○	基本は１か統で実施。（来た場合はもう１か統入れたい。）
	八森	5	○	モニタリングは２か統必要。来る向きで異なるため。
	能代	1	○	モニタリングとして１か統。
	若美	2	○	２か統必要。
	五里合	6	△	他地区の水揚げ状況により判断。
	北浦	8	○	共同の１か統でモニタリング、網を設置することでブリコも回収できる。
	船川	30	○	各自判断で実施することとするが、ほとんど定置網は入れない。
	脇本	6	○	定置はやらないが刺し網は入れたい。ブリコ用の工作物を入れてブリコの確保に努める。
	天王	5	×	定置網は入れない。
	道川	1	△	他地区の漁獲状況により判断
	平沢	1	○	定置はやめて刺し網１か統でモニタリング（大漁することがあれば定置も検討）。水中ドローンでの調査に協力。
	金浦	1	○	１か統のみのため実施。水中ドローンでの調査に協力。
	象潟	2	○	モニタリングでも２か統必要。水中ドローンでの調査に協力。
底びき網	全県	17	○	冬季の荒天で、出漁日数も減少し、辞める底曳き船も出ている。ハタハタだけを避けるのは難しい。

○ほぼ全地区で操業を実施したいという意向
○資源管理対策として、調査への協力やブリコの確保に努める取り組みを実施

参考
底びき網船出漁日数

底びき許可隻数（年度当初）
2016年　27隻
2025年　20隻
（うち2隻は9－12月の操業なし）

	2016年	2025年
9月	18	11
10月	14	14
11月	16	8
12月	13	3
合計	61	36

４．今期への提案

〇資源量推定の方法が漁獲量をベースとしているため、昨年の漁獲量からでは今期の資源量は昨年同時期に比べて少ないと推定される。

〇１歳魚の加入が悪い状況が続いているため、急激な増加は見込めない。

〇一方、今期は９月の調査で１～２歳魚が多く漁獲されていることから、昨年より加入が良かった可能性もあるものの、過年度の調査では稚魚の発生は少ないとされていることから、現段階では明確ではない。

〇１～２歳魚については獲り残す必要があるため、これまでの対策である目合の大きな網を使った操業を実施するべき。

〇産卵場所の変化も念頭においた調査も必要である。

（参考：漁獲努力量管理計画）

（別表１）

漁期年	漁法	漁獲努力量カウント方法	岩館	八森	能代	峰浜	浅内	八竜	若美	五里合	北浦	畠	戸賀	船川	脇本	船越	天王	秋田	道川	松ヶ崎	西目	平沢	金浦	象潟
令和７	さし網	経営体ごとの水揚上限日数	12	12															15		15			
		経営体数	8	14															12		10			
	定置網	経営体ごとの水揚上限日数	12	12	12				12	12	15			15	15		12		17			15	17	15
		経営体数	4	5	1				2	6	8			30	6		5		1			1	1	2
	底びき網	経営体ごとの水揚上限日数	22	22										22								~~22~~	22	22
		経営体数	3	3										3								~~1~~	5	2
		経営体ごとの１日カウント漁獲量_kg	90	90										90								~~90~~	90	90

○　本操業を実施することになった場合、漁獲努力量の範囲内で実施する。

○　底びき網船は9月から1隻減